

川崎市議会議員(麻生区選出、無所属)

月本たくや

レポート【第 40 号】

月本たくやレポート編集部

〒215-0024 川崎市麻生区白鳥 2-3-2 K コーポ白鳥 103

TEL : 044-986-6010 FAX : 044-330-1563 Email : mail@tsukimoto.info



女性視点の防災対策を進めよう！

～女性の防災活動への参加で、被災時の安全対策へ～

✓女性視点の防災パンフレット

国内でたくさんの災害が発生しています。災害はいつ起こるかわかりませんので、日頃から様々なシミュレーションと訓練を重ねていくべきです。

今年9月6日に、川崎市男女共同参画センターで、「女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト」等が主催する「避難所運営ゲーム」の体験会が開催されました。

女性の視点を避難所運営に取り入れるという活動は大変重要です。

例えば、トイレや更衣室、赤ちゃんがいる場合は授乳室等の設置、女性に必要な物資の対応について、性被害の防止について等、避難所運営での想定のお機になります。

以前、「子連れ防災手帖」という本を読んだことがあります。東日本大震災のときの被災ママ 812 人がつくった防災手帖ということで、震災発生翌年に発行されています。子どもに必要な防災対策グッズから、メンタルケアのことももちろんですが、女性に必要な防災術・防犯対策についても書かれています。

男女共同参画センターでは、「女性の視点で作った防災手帖～シニア版～」、「男女共同参画の視点でつくる避難所運営ガイド」、「ひとり暮らしの女性のための防災 BOOK」が作成され、それぞれの用途に応じたものになっています。今回の議会では、それぞれの冊子の重複部分が多いため、一つにまとめて、読みやすくすることを提案し、市が検討を始めることになりました。これを機会に女性も男性もすべての世帯に啓発していくべきです。

✓男女共同参画の基本

先日、ノーベル平和賞は、デニ・ムクウェゲ氏とナディア・ムラド氏の受賞が決まりました。今回の平和賞は、女性への性暴力の廃絶を目指す世界の方向性が示されたものだと思います。

災害時における性暴力の発生は通常時の3倍と言われます。しかし、被災時の極限状態においても、人の尊厳は守られなければいけません。災害時の女性の安全対策は、女性自身が自助力を高める必要があると同時に、地域みんなで「共助」の視点で取り組んでいくことが大切です。

そこで、避難所運営会議メンバーの女性比率を上げることで、先ほどのトイレや更衣室を始めとした避難所運営がすべての人にやさしいものになっていきます。さらに、避難所はもとより地域のパトロールを自主的に進めて行くことで、防犯対策も進められます。

今議会では、私の提案により、避難所運営会議メンバーの女子比率を高めることを市の施策評価の目標の一つに設定することが決まりました。非常時においても尊厳が守られる男女共同参画の基本づくりが大きく一歩進みます。

川崎市の避難所運営会議の
構成メンバーの女性比率

川崎市全体 27.9%

市内最高(中原区) 33.9%

市内最低(麻生区) 13.6%

※平成 29 年 6 月 23 日時点

議会活動の報告

✓決算審査特別委員会での質疑

① 介護予防について

事業所ごとの年間介護度等改善率の算出により、介護予防事業所の評価につなげ、要介護度1・2の方は要支援へ、要支援の方は自立につなげるシステムづくりを提案。改善率の高い事業所を評価すると同時に、予防事業の中身を検証し、より充実した内容につなげられる可能性が広がります。

また、介護度等の改善で「サービスが削られる」と思い、改善変更の申請をしないという実情があります。自らできることは自らやるというのは、人間の尊厳であり、できる喜びを自分自身や家族で分かち合い、ひとりひとりの自立が社会貢献であるという意識改革を進めて行くよう、提案しました。



② 子どもの貧困対策について

就学援助は教育委員会、児童手当はこども未来局、生活保護は健康福祉局など、子どもの貧困にかかる支援は縦割りの申請主義と複雑です。生活困窮な環境にある子どもたちの情報を一元化し、大阪府箕面市のような「子どもの成長を見守るシステム」の検討を提案。

6年前、川崎市議会では議員提案条例として「子どもを虐待から守る条例」を制定しました。子どもの命を守り、自立した成長につなげていくためにも、子どもの成長を見守るシステムを検討し、きめ細かい自立支援をはかっていくべきです。

③ 校務支援システムについて

校務支援システムにより、教員の事務負担が軽減されたわけですが、今年の4月に報告された教職員の勤務実態調査では、たくさんの残業と休日出勤の多さは目立ちます。しかしながら、事務負担の軽減により、事務に割いていた時間を児童生徒と向き合う時間に充てられるようになったという意見もあり、教員の働き方は、単純に時間で計算するべきものではないと言えます。

また、学校ごとでのシステムの活用状況に差があるため、教員が異動した際の負担の軽減を図るためにも、統一的な運用の検討を求めました。

市の行政システムと学校の校務支援システムが別ラインになっていて、行政システムは学校で1台のパソコンで共有しているという実態もあるので、次期システムの検討でシステム改善を進めることを提案しています。

✓ひとり親コンシェルジュ制度の超党派勉強会

一般社団法人日本シングルマザー支援協会代表理事の江成道子氏を講師に招き、「ひとり親コンシェルジュ制度」の勉強会を開催。この制度は、自立したいと思う人に、金銭的な施しではなく、企業への働きがい改革と女性への働き方教育で、人材のマッチングを行っていくものです。自立したい人をあらゆる手法でサポートし、自立に結び付けていく重要な取組です。



月本たくやプロフィール

昭和53年 大阪府豊中市生まれ。神奈川大学法学部法律学科卒業後、建築設備メーカーに就職。

川崎市長政務秘書、衆議院議員公設秘書（麻生区・国会担当）等を経て、平成23年川崎市議会議員初当選。交渉会派団長、議会運営委員会委員、川崎市農業委員（議会推薦）等を経て、平成25年5月より無所属。平成27年川崎市議会議員当選。

現在 川崎市議会議員（麻生区選出、当選2回） 文教委員会委員 神奈川県クッブ協会代表理事

NPO 法人防犯ネットワーク理事・麻生区支部長 川崎市麻生区男子ソフトボール連盟副会長

川崎白百合ライオンズクラブ前会長 五力田町内会地区長 麻生区白鳥在住

趣味：KUBB（スウェーデン発祥のスポーツ、日本クッブ協会認定普及指導員）

月本たくや事務所

麻生区白鳥 2-3-2 Kコーポ白鳥 103

TEL 044(986)6010 FAX 044(330)1563

月本たくや

検索

